

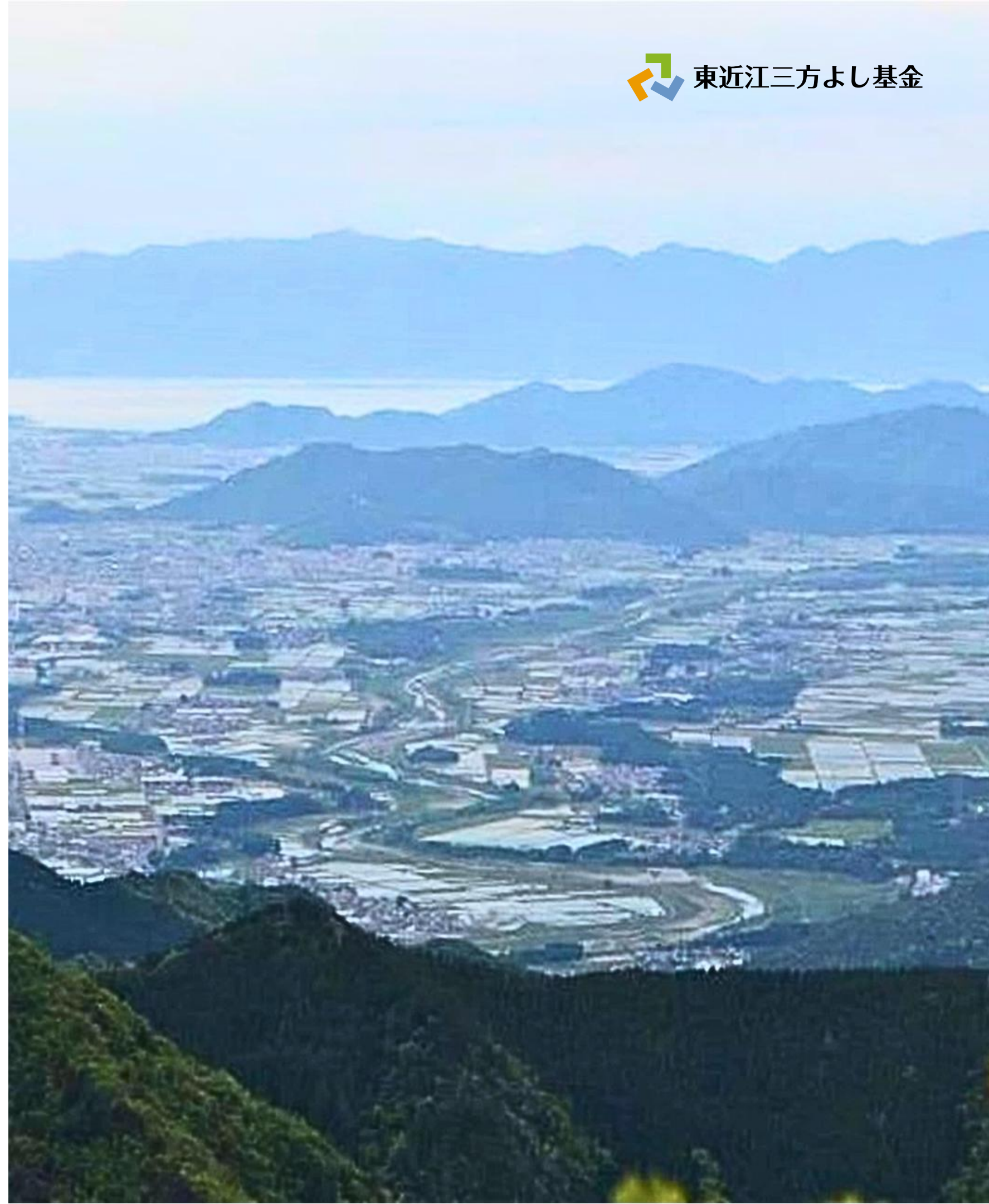
2025年度実証報告

三方よし森里川湖インパクトファンド

2026年2月

東近江三方よし基金 プロジェクトチーム

田口 真太郎（NPO法人ナイマゼ 代表理事）



自然環境をベースにそれらを保全し活用する取組

人と人・人と自然をつなぐ取組

基本方針

① 地域資源を活用して魅力向上

- ・ 歴史文化遺産の磨き上げ
- ・ 地域の人財の磨き上げ
- ・ インフラ、自然資本の有効活用

② 地域資源を再評価し保全・再生

- ・ 森林、河川の保全・再生
- ・ 生活弱者対応と地域共生の仕組みづくり



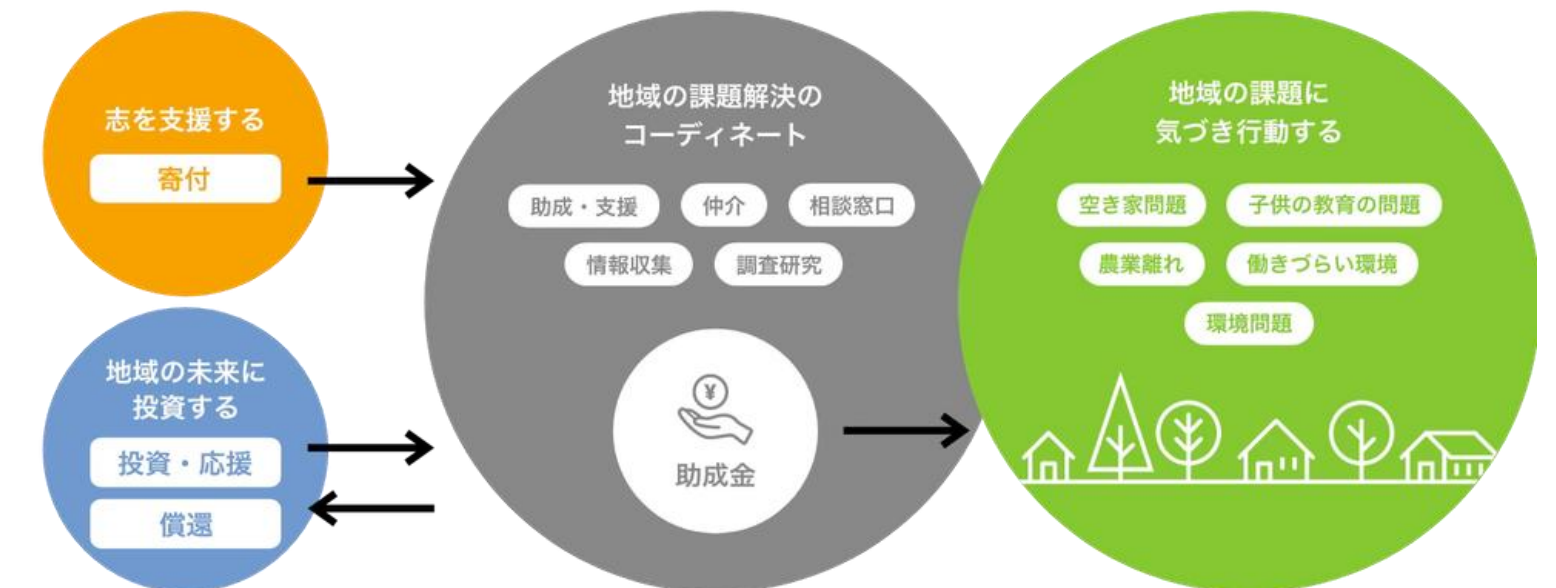
支援者（個人・企業）



東近江三方よし基金



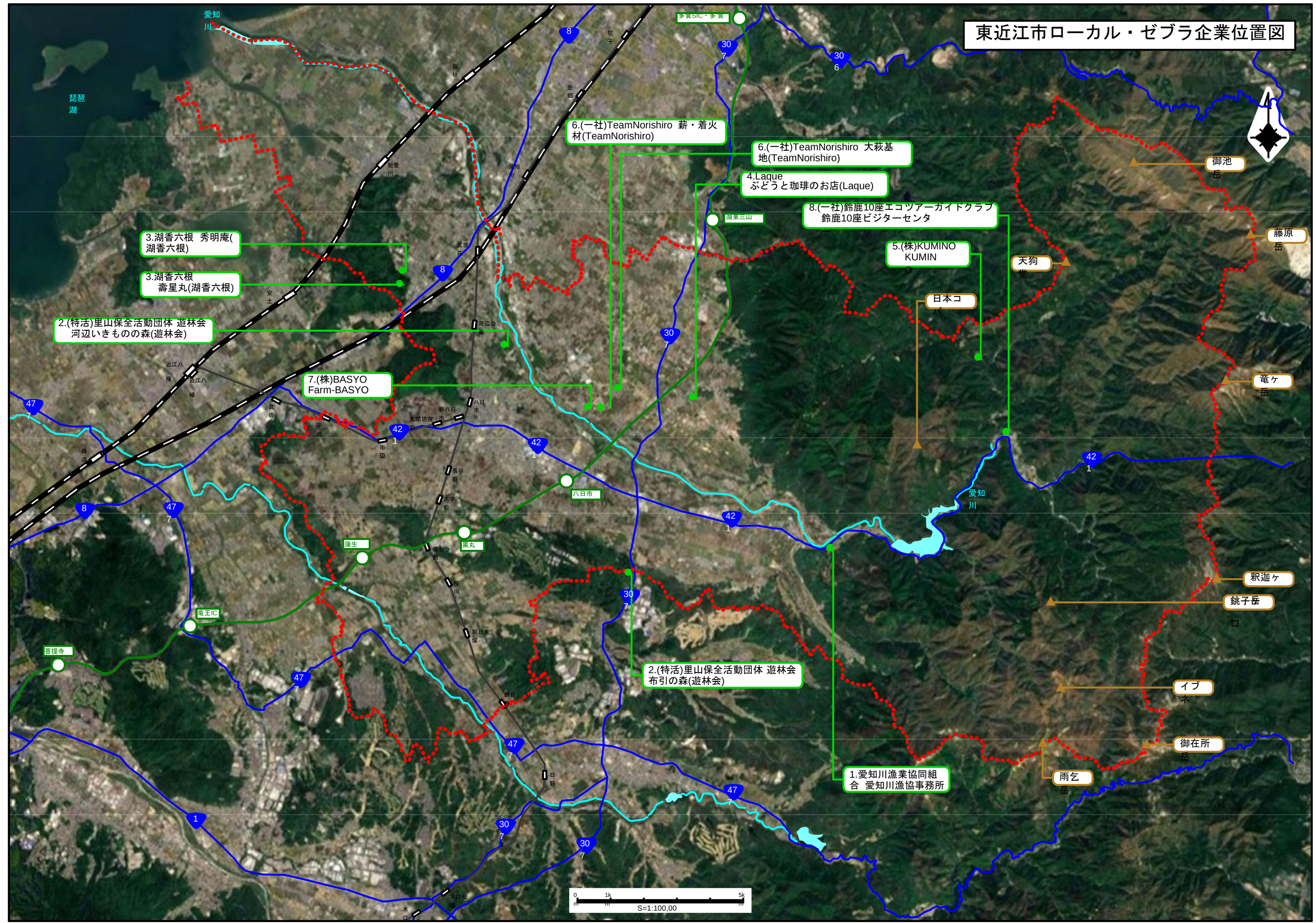
社会的事業者



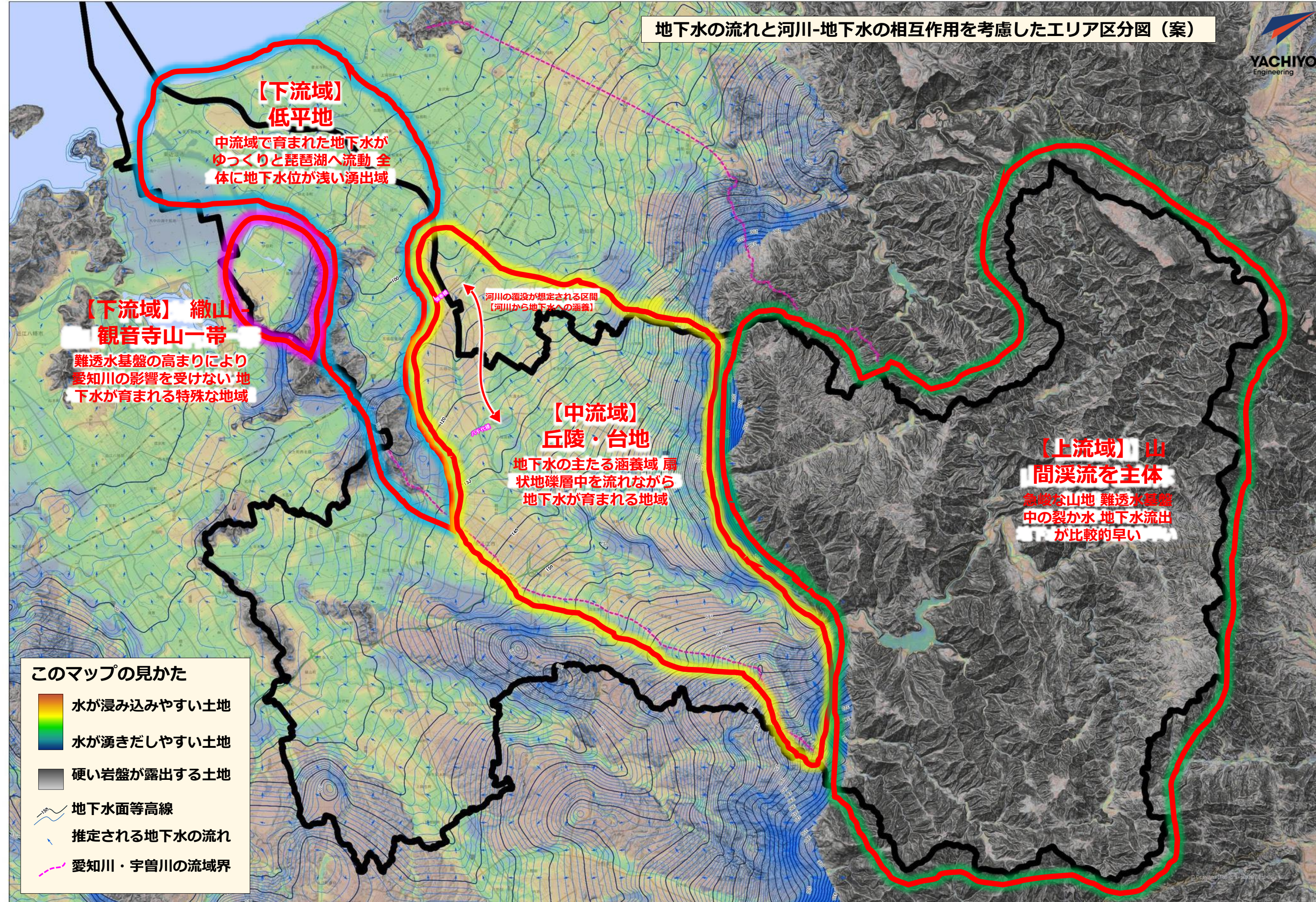
【支援実績：2016～2025】

団体数 68 / 事業数 103 / 支援総額 4億4,882万円

APPENDIX
対象地マップ



地下水の流れと河川-地下水の相互作用を考慮したエリア区分図（案）



このマップの見かた

- 水が浸み込みやすい土地
- 水が湧きだしやすい土地
- 硬い岩盤が露出する土地
- 地下水面等高線
- 推定される地下水の流れ
- 愛知川・宇曾川の流域界

基盤地図情報10mメッシュ標高データ、地理院地図「淡色地図」データを用いて八千代エンジニアリング（株）が解析・作成



流域の各所で機能の異なる実践を束ね、“どこを支援すべきか”を検証



NPO法人 遊林会

愛知川で自然再生体験を提供



一般社団法人 Team Norishiro

人・資源・場をつなぐ中間支援



愛知川漁業協同組合

ビワマス産卵環境を保全・拡大



鈴鹿10座エコツアーガイドクラブ

鈴鹿の保全とエコツアー運営



湖香六根（ウカロッコン）

食と宿で地域の魅力を発信



株式会社BASYO

農福連携で野菜・花を生産



Laque

ブドウ畑継承と加工販売を推進



株式会社クミノ（KUMINO）

木育資材で森と学びをつなぐ

現場ヒアリング→統合分析→エリア別深掘り→WSで検証

東近江三方よし基金が、点の支援から“東近江が育んだ流域全体の構造”に働きかける 「金融×伴走×評価」の仕組みづくりを実証。(2016-2025支援実績:団体68/事業103/支援総額4.5億円)

①地域課題

- 本来つながっている森・里・川・湖も、関わる組織(LZ)の制度・資金・人材・評価が個別に管理され、連携が生まれにくい
- それぞれの活動が点在し、地域全体の価値をまとめて評価することが難しいため、長期の投資や支援の仕組みが成立しにくい。



そのため、流域全体を1つと捉え、どこに介入すべきか(介入点)を見立て、投資・伴走・評価を編み直す必要がある

②実証内容

1. 支援の対象

上流～下流で異なる役割を持つ
ローカルゼブラ8社

(愛知川漁協/遊林会/湖香六根/BASYO/Laque/Team Norishiro/KUMINO/鈴鹿10座エコツアーガイドクラブ)

2. 実証手順

- ✓ 簡易DDの設計:
横断比較できる共通フォーマット
- ✓ 活動ヒアリング:
個社の実態把握
- ✓ 統合分析:
個別の結果を流域全体の構造・介入すべき課題に結びつける
- ✓ エリア別深掘り:
流域を4エリアに分けて課題構造を分析
- ✓ 8社WSでの検証と合意形成:
次年度の介入候補を抽出

③成果・気づき

- ローカルゼブラの取組・課題を統合することで、流域に共通する「5つの断絶構造」が明確になり、支援を集中すべきポイント(レバレッジ)が可視化された
- 新ファンドが生む価値を、3つのレイヤーで整理し、評価設計のたたき台を作成
 - A:自然資本価値 | 国際標準に準拠した自然資本価値(UK/EU自然資本勘定ベース)
 - B:人の営みが生む価値 | ローカルゼブラ等の活動が生む価値(自然回復・福祉・防災・文化再生・教育等)
 - C:紡がれる価値 | 人の営み同士あるいは人と自然が紡ぎ出す価値
 - →A+:東近江固有の自然価値解釈
- 所感:8社の取り組みを同じ粒度で整理するのが最も難しかった。一方で、課題は個社ではなく流域の断絶構造にあると分かった。さらにWSでの対話を通じ、地域の運営チームが流域思考で各社の役割・期待値を整理し、対話しながら案件組成につなげることが不可欠だと腹落ちした。

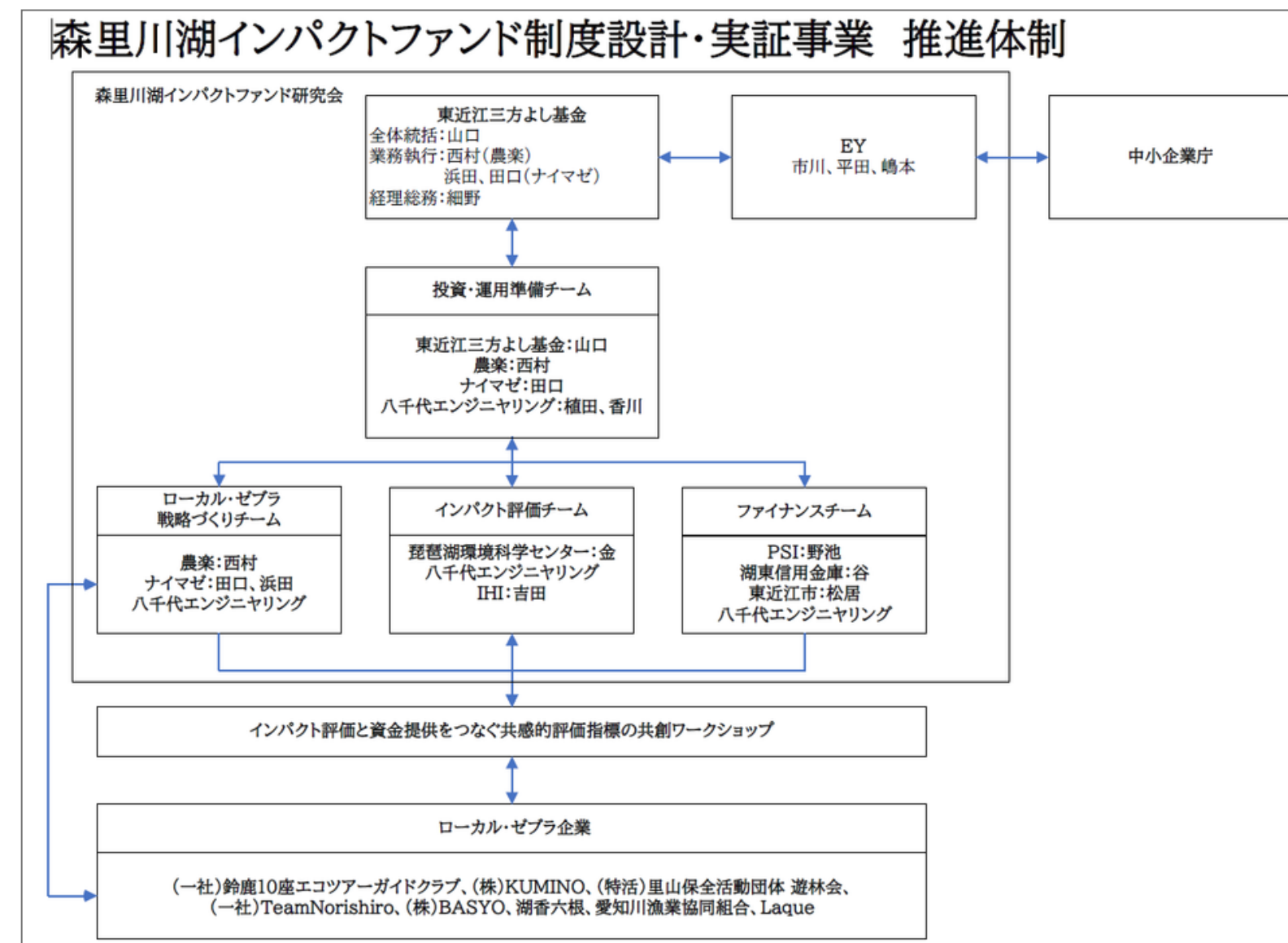
- 最終ゴール(案):世界の潮流を踏まえ、日本の地方自治に必要な金融スキームを東近江に実装し、命が繋がる社会を復活させる
- 理念:自然一元論/近江商人の世界観/相互扶助/命が育まれ続ける状態

森・里・川・湖はつながるのに、制度・資金・担い手・
評価が分断され、循環が生まれにくい。

- 実践が点在し、相乗効果が生まれにくい（総合評価もしにくい）
- 価値が見えにくく、長期投資の条件（制度・契約・資金）が整いにくい

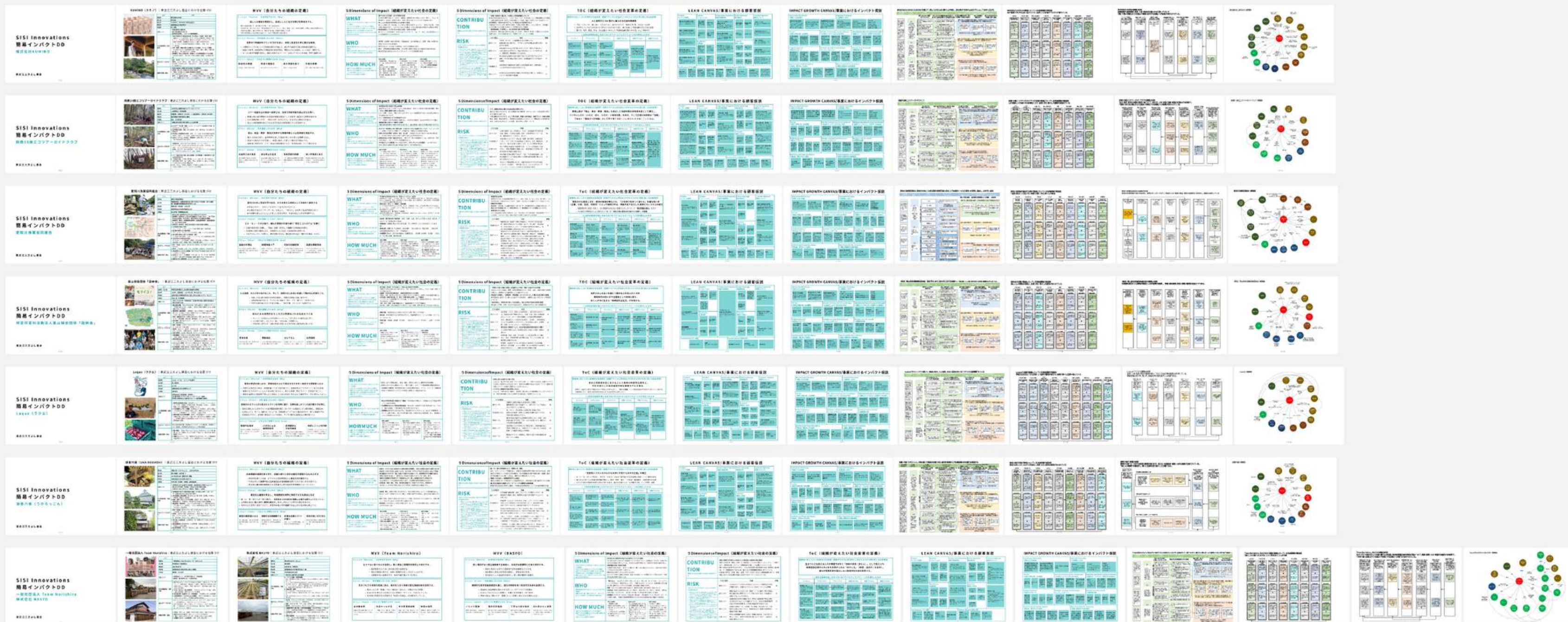


流域単位で“介入点”を見立て、
投資・伴走・評価を編み直す必要がある



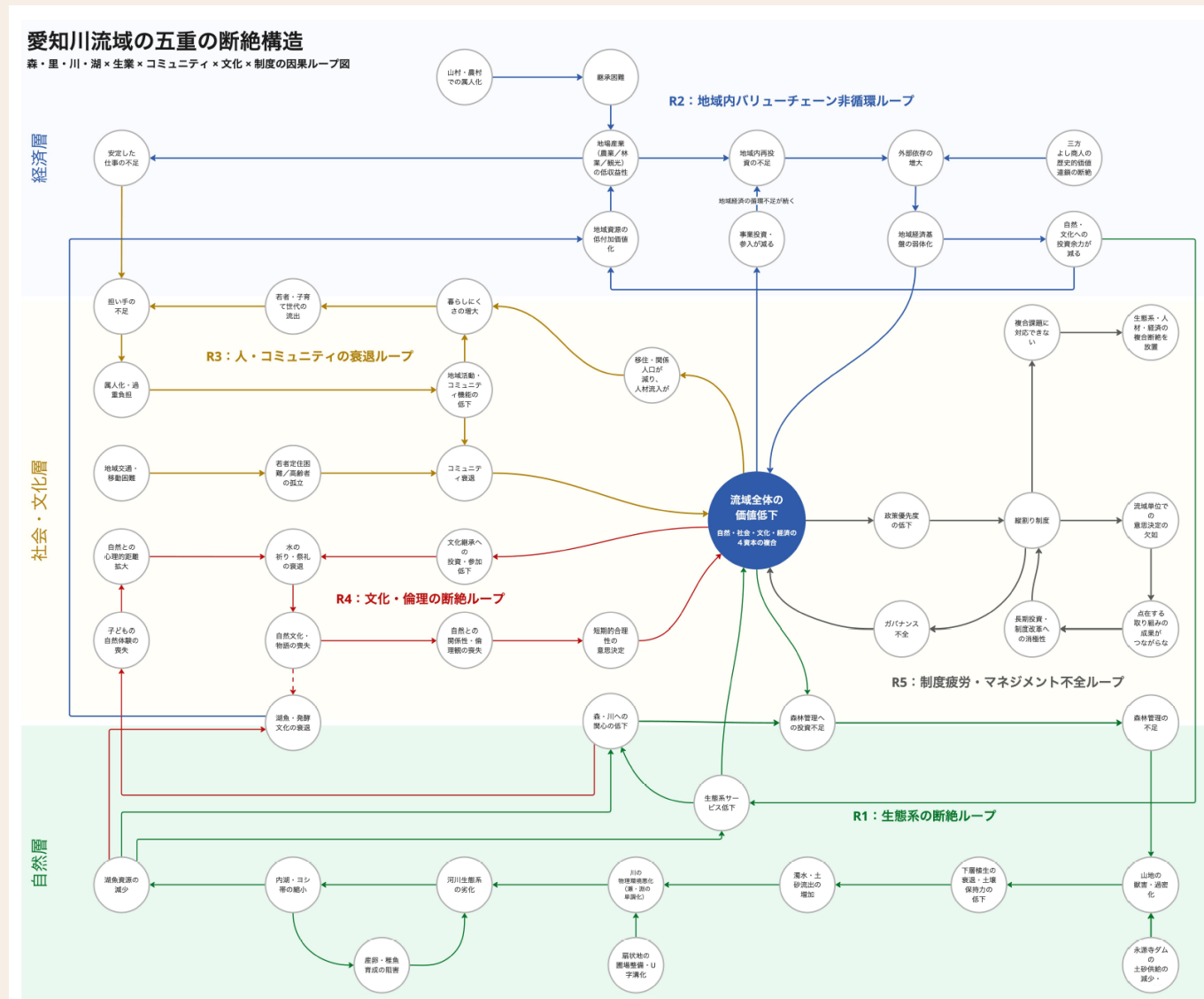
本事業の推進体制

まず8社の現場から始め、横断比較できる「簡易DD」を設計

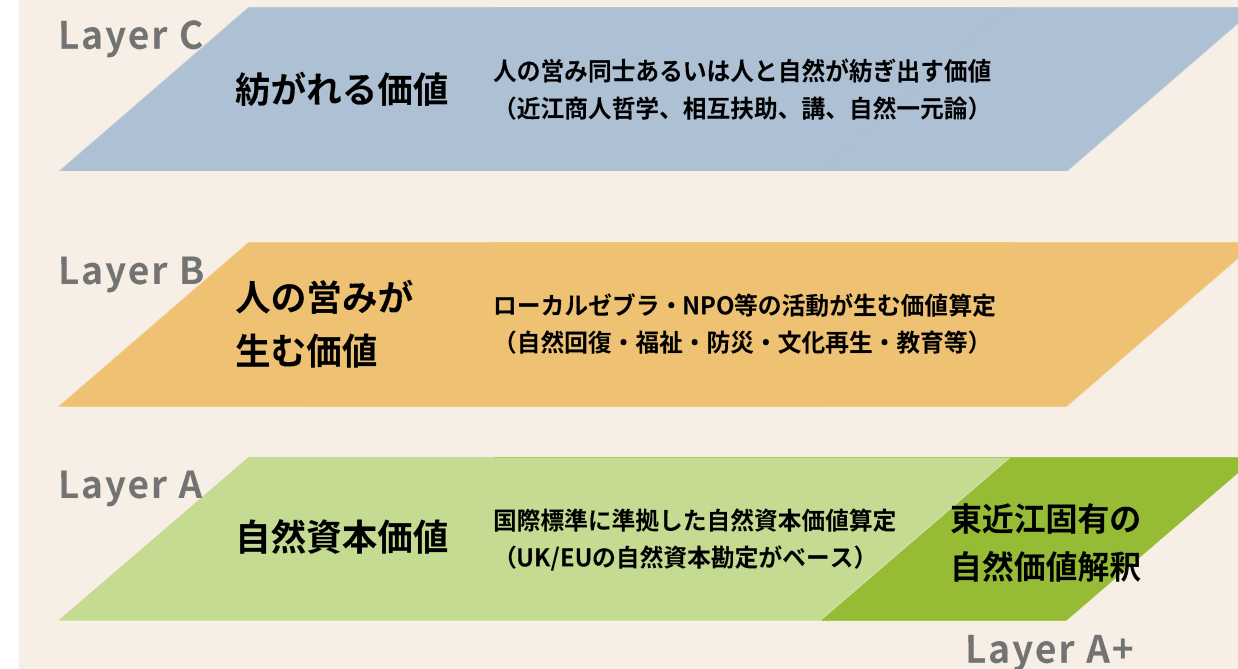


個別分析結果を、統合分析につながる形式で整理

個別結果を統合すると、流域の「五重の断絶構造」が見え、支援の焦点が具体化しました。



8社の分析結果を統合し、共通の詰まり
= 5つの断絶構造を整理



ファンドが生むインパクトを価値レイヤーで整理
(評価設計のたたき台)

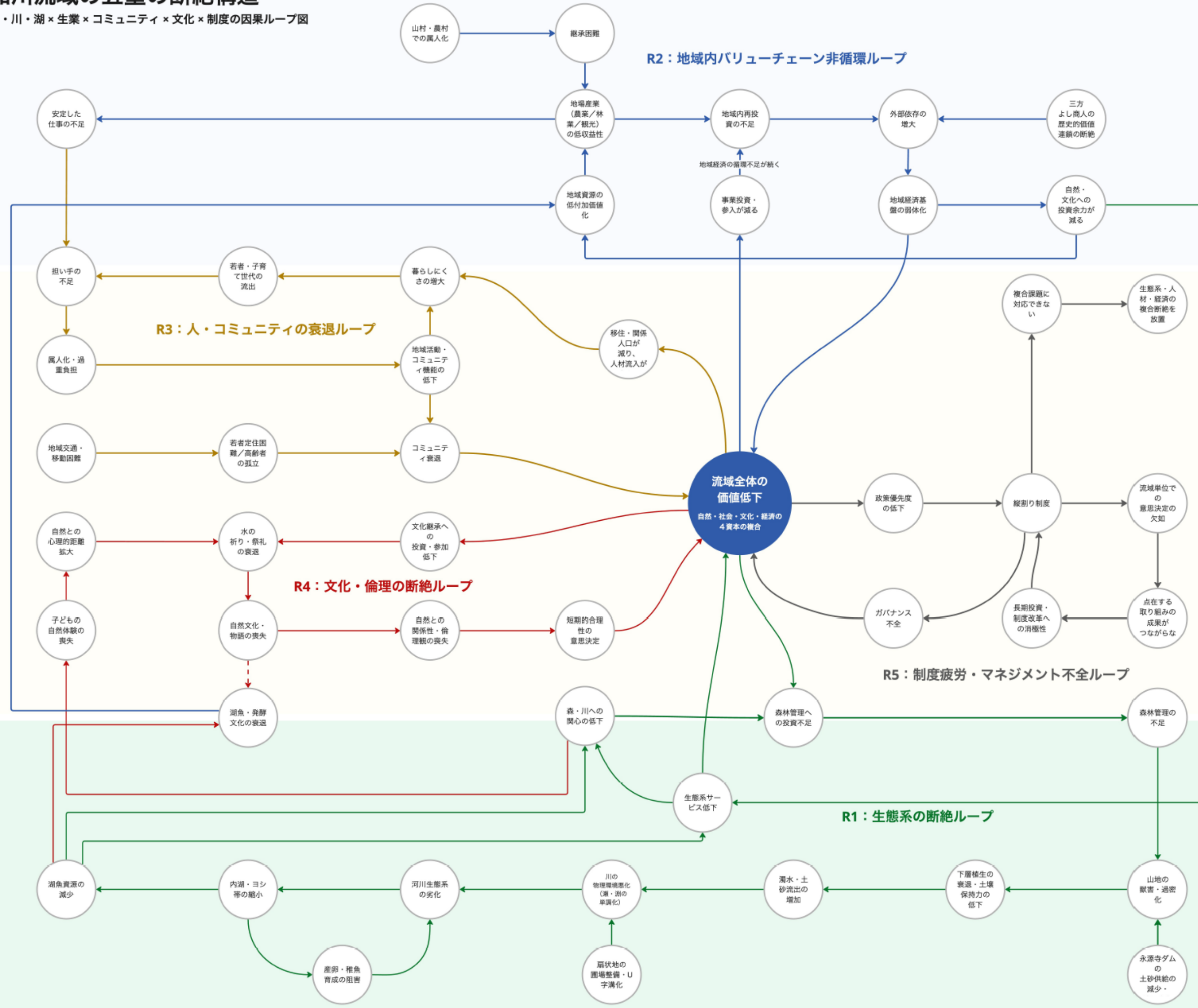
愛知川流域の五重の断絶構造

森・里・川・湖×生業×コミュニティ×文化×制度の因果ループ図

経済層

社会・文化層

自然層



Layer C

紡がれる価値

人の営み同士あるいは人と自然が紡ぎ出す価値
(近江商人哲学、相互扶助、講、自然一元論)

Layer B

**人の営みが
生む価値**

ローカルゼブラ・NPO等の活動が生む価値算定
(自然回復・福祉・防災・文化再生・教育等)

Layer A

自然資本価値

国際標準に準拠した自然資本価値算定
(UK/EUの自然資本勘定がベース)

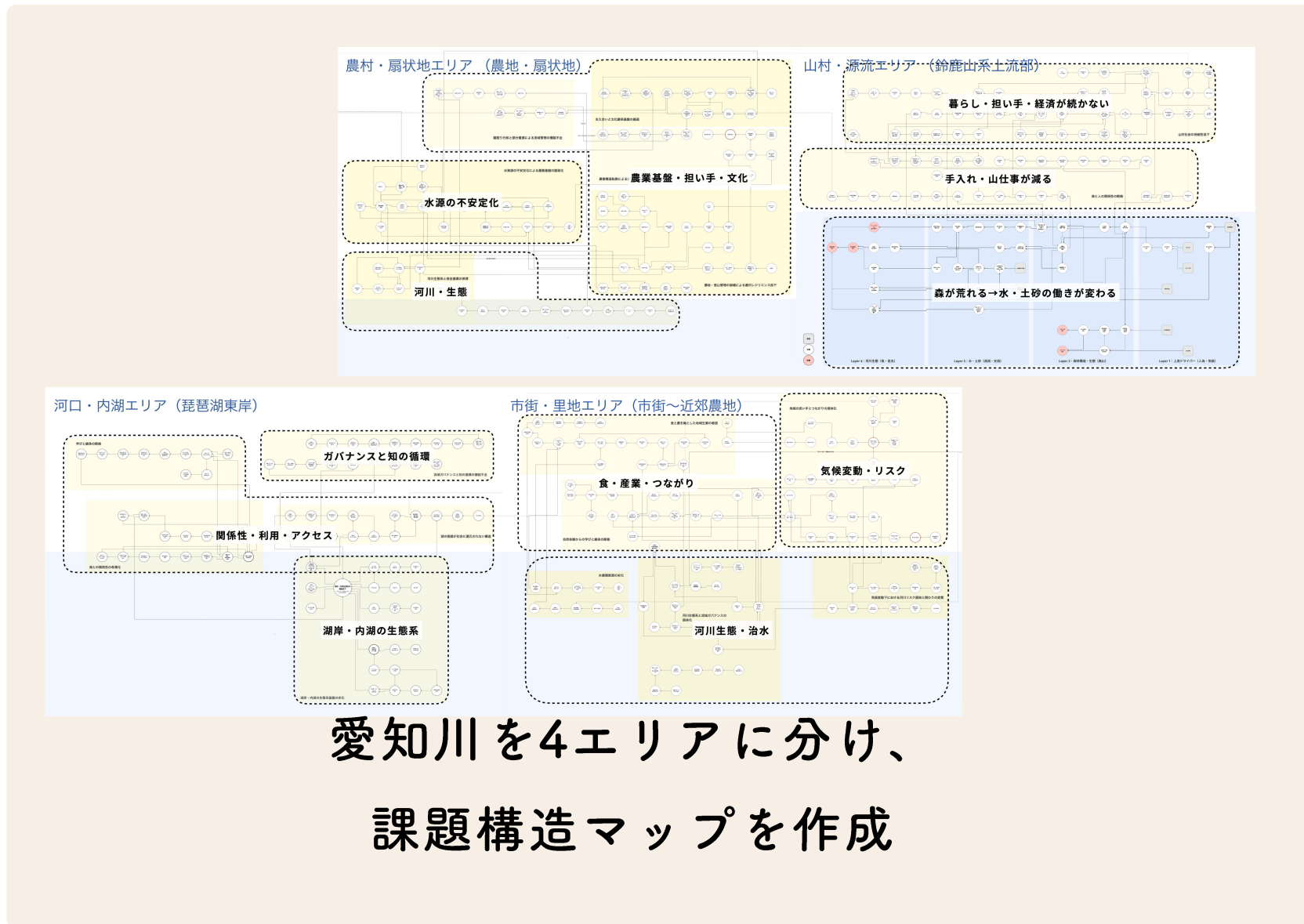
東近江固有の
自然価値解釈

Layer A+

カーボン、
ネイチャー、
クレジット

インパクト
(社会・環境・財務)

エリア別に原因を読み、WSで合意形成し、
次年度に向けた介入候補を抽出しました。



横断で見た共通構造と暫定レバレッジ候補

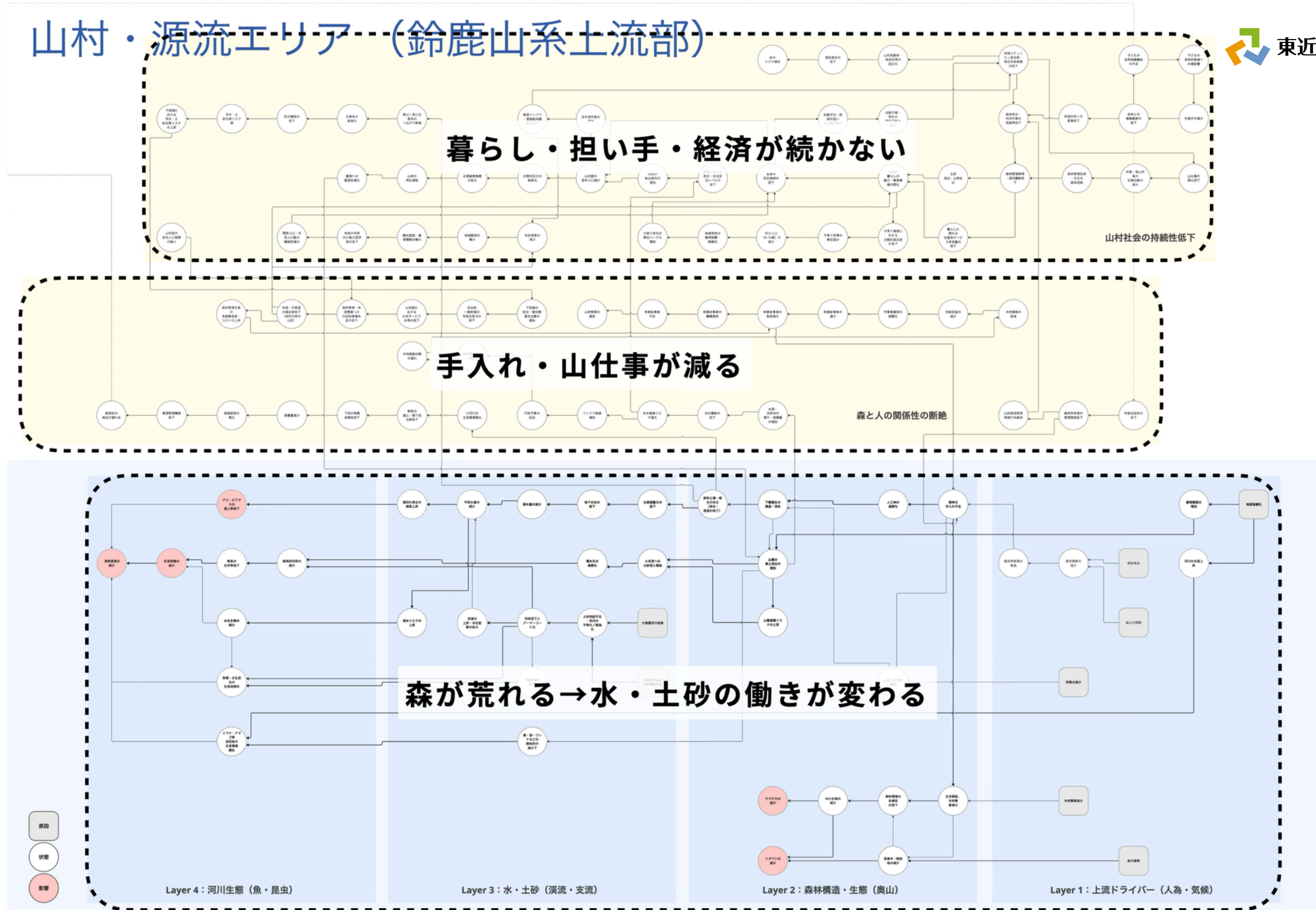
7テーブルの論点を、4つの構造的な詰まりと5つの暫定レバレッジ候補を抽出

1. 7テーブルから見た「共通構造」	2. 暫定レバレッジ候補
① 担い手・継承の詰まり 続けられる余白/安心/学び/受け渡しが不足	・ LP1：中間機能（調整・翻訳・束ね・受け皿）の再設計
② 価値の翻訳・見える化の詰まり 価値はあるが、言葉・資料・導線・説明が弱く認知されない	・ LP2：長期投資が成立する条件整備（契約・継承・積算・更新合意）
③ 接続（中間機能）の詰まり 人・組織・制度・資金を束ねる調整役/受け皿が不足	・ LP3：余白を買う支援（コア費/人材育成/安心安全/燃え尽き防止）
④ 長期投資の条件（制度・契約・お金）の詰まり 自然・文化・継承は長期戦だが、短期成果に寄りやすい	・ LP4：価値の見える化を“資産化”（物語・資料・導線・説明パッケージ）
	・ LP5：入口設計（参加・体験・学び）で担い手循環をつくる

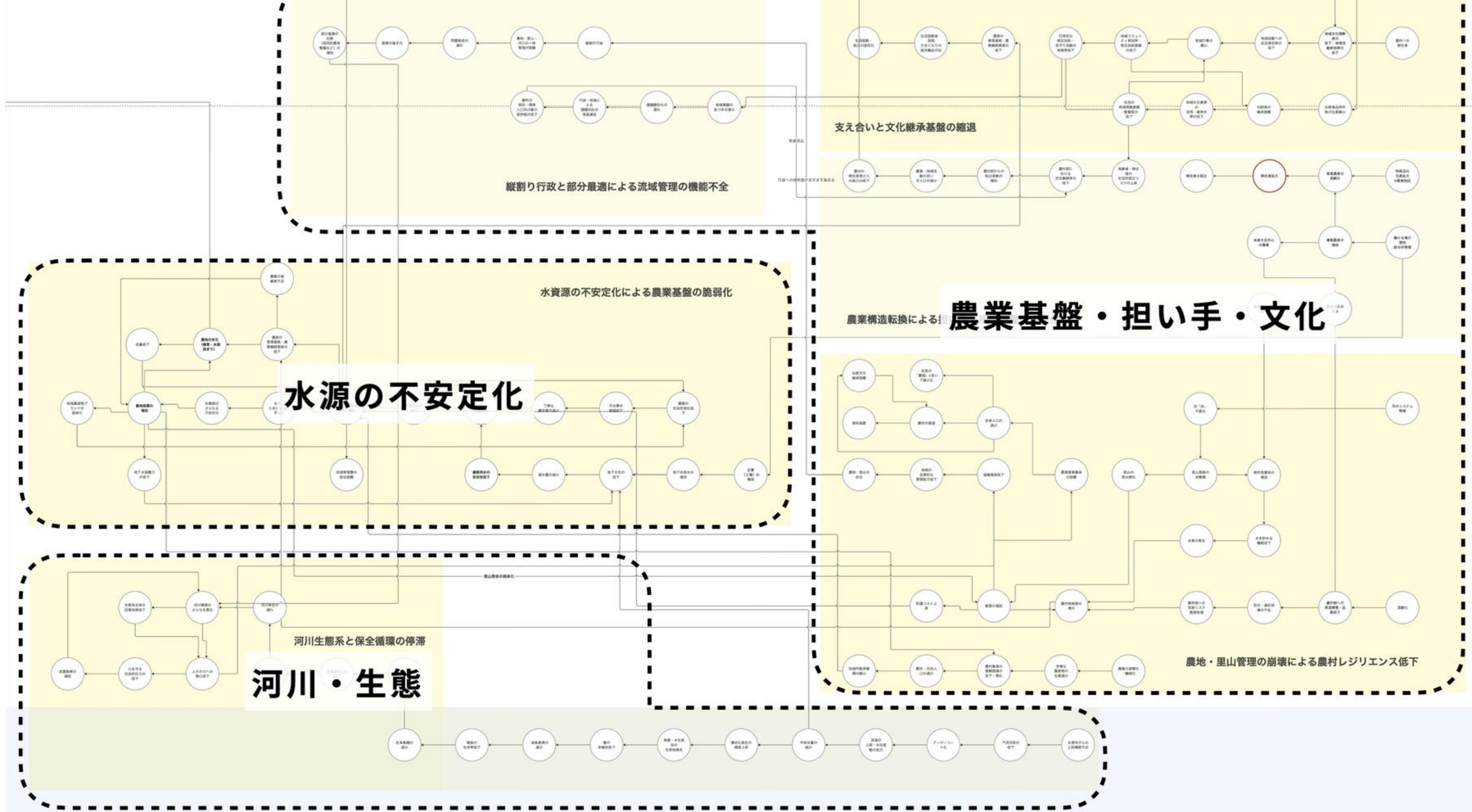
外部専門家・ファシリテーター協力
のもと、8社も集まりWSを実施

4つの詰まり/5つの暫定レバレッジ（介入候補）を抽出

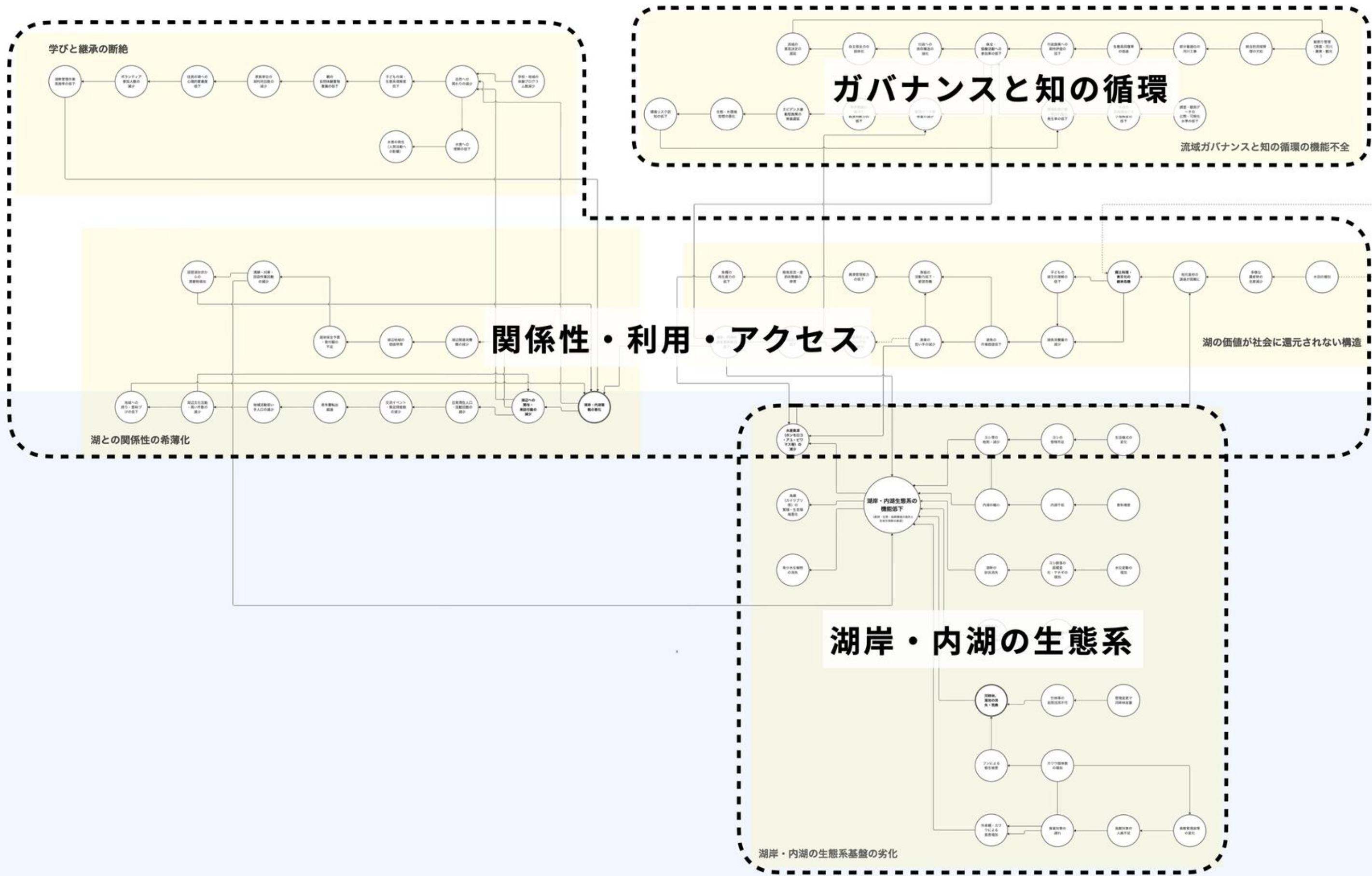
山村・源流エリア（鈴鹿山系上流部）



農村・扇状地エリア（農地・扇状地）

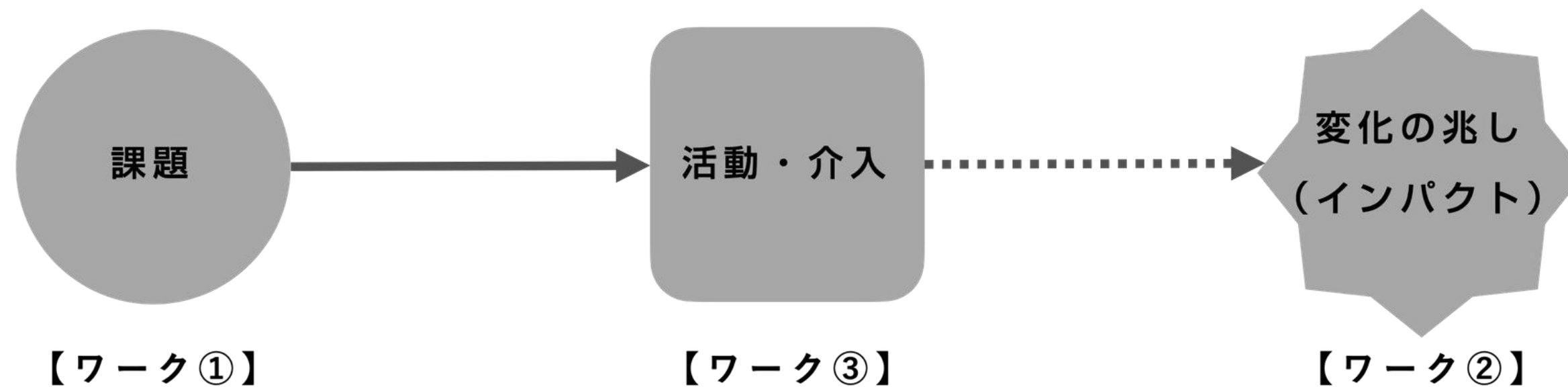
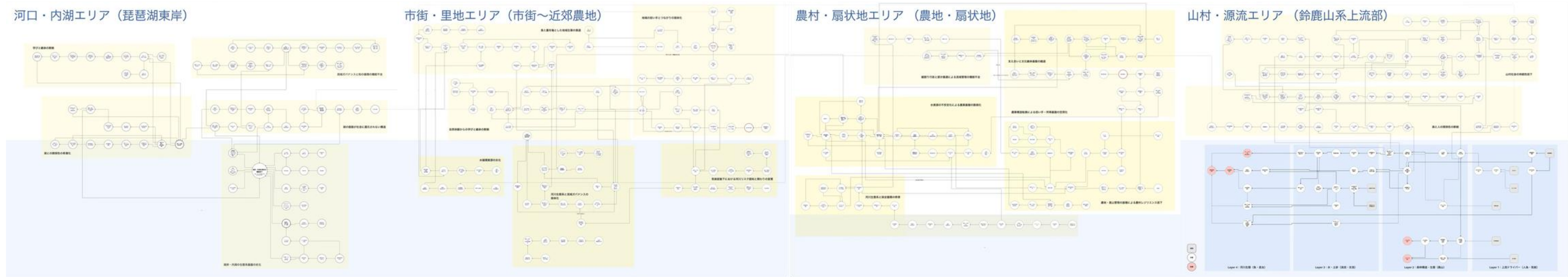


河口・内湖エリア（琵琶湖東岸）



1月14日 ワークショップ概要

4エリア課題構造マップを参照し、3ワーク（現状／理想／介入）で議論した。



愛知川流域で、すでに「構造として
起きていること」は何か？

この構造に対して、誰が・どこに・
どんな関わり方がありうるか？

その関わりが始まると、
何が「変わり始める」か？

7テーブル一覧（誰が・どこを話したか）

流域の多様な実践から、異なる角度の「詰まり」が持ち寄せられた。

No	分類	名前	所属	担当LZ
1	研究会	金 再奎	滋賀県琵琶湖環境科学研究センター	KUMINO
2	研究会	園部 裕樹	八千代エンジニアリング株式会社	KUMINO
3	研究会	嶋本 章吾	EYストラテジー・アンド・コンサルティング株式会社	KUMINO
4	ファシリ	桑原 憂貴	アンドパブリック株式会社	KUMINO
5	LZ	井上 慎也	株式会社KUMINO	KUMINO
6	研究会	松居 正人	東近江市環境部森と水政策課	鈴鹿10座
7	研究会	植田 大造	八千代エンジニアリング株式会社	鈴鹿10座
8	研究会	香川 千波	八千代エンジニアリング株式会社	鈴鹿10座
9	LZ	城尾 与志明	一般社団法人鈴鹿10座エコツアーガイドクラブ	鈴鹿10座
10	LZ	今井 康太郎	一般社団法人鈴鹿11座エコツアーガイドクラブ	鈴鹿10座
11	LZ	加藤 紳一郎	一般社団法人鈴鹿11座エコツアーガイドクラブ	鈴鹿10座
12	研究会	坂田 健太	EYストラテジー・アンド・コンサルティング株式会社	愛知川漁協
13	ファシリ	長友 まさ美	アンドパブリック株式会社	愛知川漁協
14	専門家	佐藤 祐一	滋賀県琵琶湖環境科学研究センター	愛知川漁協
15	LZ	村山 邦博	愛知川漁業協同組合	愛知川漁協
16	研究会	吉田 公亮	株式会社IHI	遊林会
17	研究会	田口 真太郎	NPO法人ナイマゼ（成安造形大学）	遊林会
18	専門家	水野 敏明	滋賀県琵琶湖環境科学研究センター	遊林会
19	LZ	熊木 香	NPO法人遊林会	遊林会

No	分類	名前	所属	担当LZ
20	研究会	谷 和也	湖東信用金庫	Laque
21	研究会	西村 俊昭	株式会社農楽（基金業務執行理事）	Laque
22	研究会	平田 祐貴	EYストラテジー・アンド・コンサルティング株式会社	Laque
23	ファシリ	紺野 貴嗣	トークンエクスプレス株式会社	Laque
24	LZ	漆崎 厚史	Laque	Laque
25	研究会	野池 雅人	プラスソーシャルインベストメント(株)	湖香六根
26	研究会	北原 菜由香	PwCコンサルティング合同会社	湖香六根
27	ファシリ	大谷 はんな	GLIN Impact Capital	湖香六根
28	ファシリ	高木 諒	GLIN Impact Capital	湖香六根
29	LZ	杉本 宏樹	湖香六根	湖香六根
30	LZ	杉本 まりえ	湖香六根	湖香六根
31	研究会	平 善之	八千代エンジニアリング株式会社	Norishiro
32	研究会	浜田 真弓	NPO法人ナイマゼ（基金業務執行理事）	Norishiro
33	専門家	堀田 總子	慶応義塾大学健康マネジメント研究科	Norishiro
34	LZ	野々村 光子	一般社団法人TeamNorishiro、株式会社BASYO	Norishiro
35	LZ	村山 英志	一般社団法人TeamNorishiro、株式会社BASYO	Norishiro
36	LZ	半澤 由子	一般社団法人TeamNorishiro、株式会社BASYO	Norishiro
37	専門家	福原 隆一	八千代エンジニアリング株式会社	
38	研究会	宮本 江梨子	八千代エンジニアリング株式会社	
39	研究会	野村 来未	日本郵政株式会社（基金に出向中）	
40	研究会	山口 美知子	公財）東近江三方よし基金	
41	研究会	細野 淳子	公財）東近江三方よし基金	

横断で見た共通構造と暫定レバレッジ候補

7テーブルの論点を、4つの構造的な詰まりと5つの暫定レバレッジ候補を抽出

1. 7テーブルから見た「共通構造」

① 担い手・継承の詰まり

続けられる余白／安心／学び／受け渡しが不足

② 価値の翻訳・見える化の詰まり

価値はあるが、言葉・資料・導線・説明が弱く認知されない

③ 接続（中間機能）の詰まり

人・組織・制度・資金を束ねる調整役／受け皿が不足

④ 長期投資の条件（制度・契約・お金）の詰まり

自然・文化・継承は長期戦だが、短期成果に寄りやすい

2. 暫定レバレッジ候補

・ LP1：中間機能（調整・翻訳・束ね・受け皿）の再設計

・ LP2：長期投資が成立する条件整備（契約・継承・積算・更新合意）

・ LP3：余白を買う支援（コア費／人材育成／安心安全／燃え尽き防止）

・ LP4：価値の見える化を“資産化”（物語・資料・導線・説明パッケージ）

・ LP5：入口設計（参加・体験・学び）で担い手循環をつくる



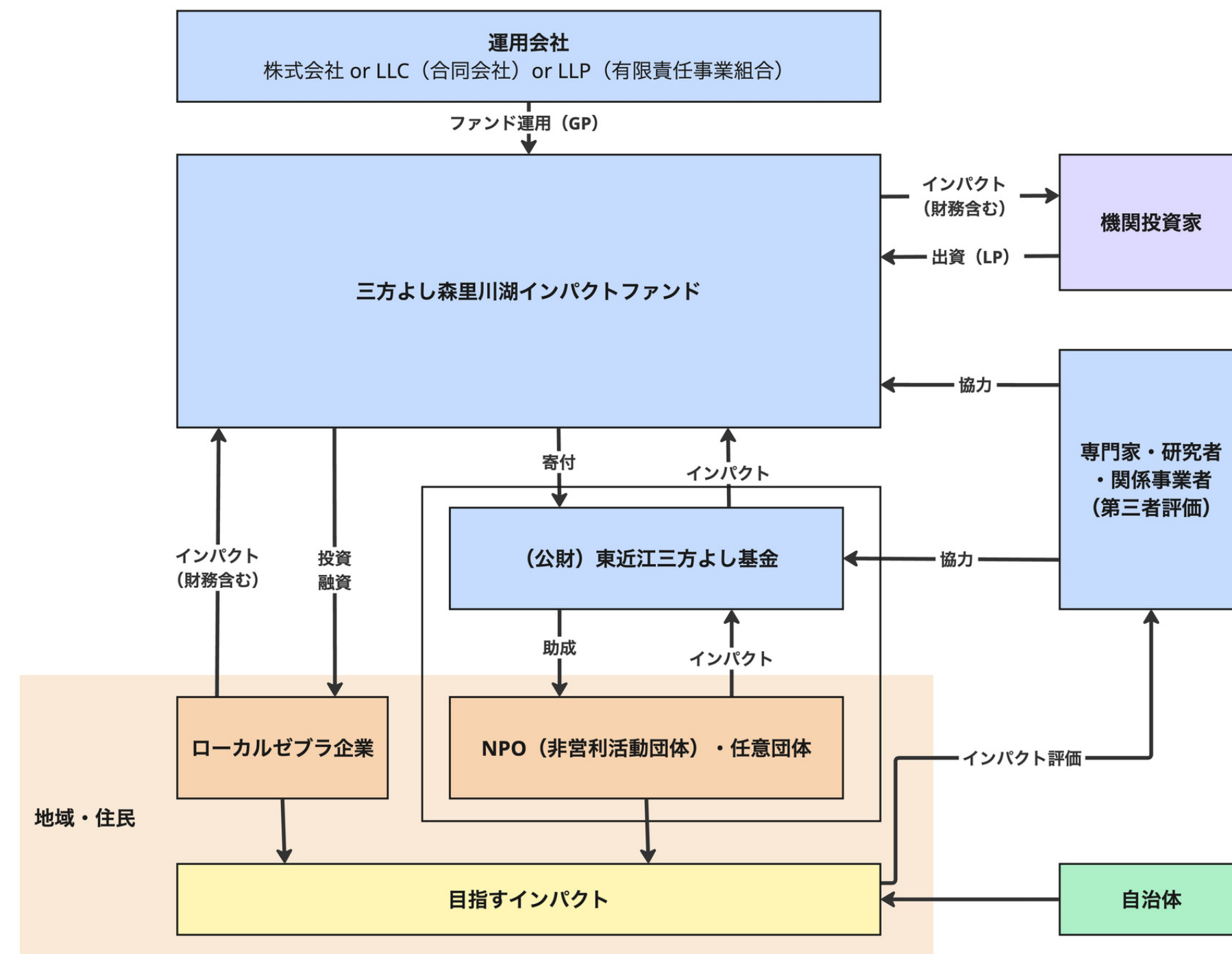
三方よし森里川湖インパクトファンドのゴールと理念

最終ゴール（案）

世界の潮流を踏まえ、日本の地方自治に必要な金融スキームを東近江に実装し、命が繋がる社会を復活させる。

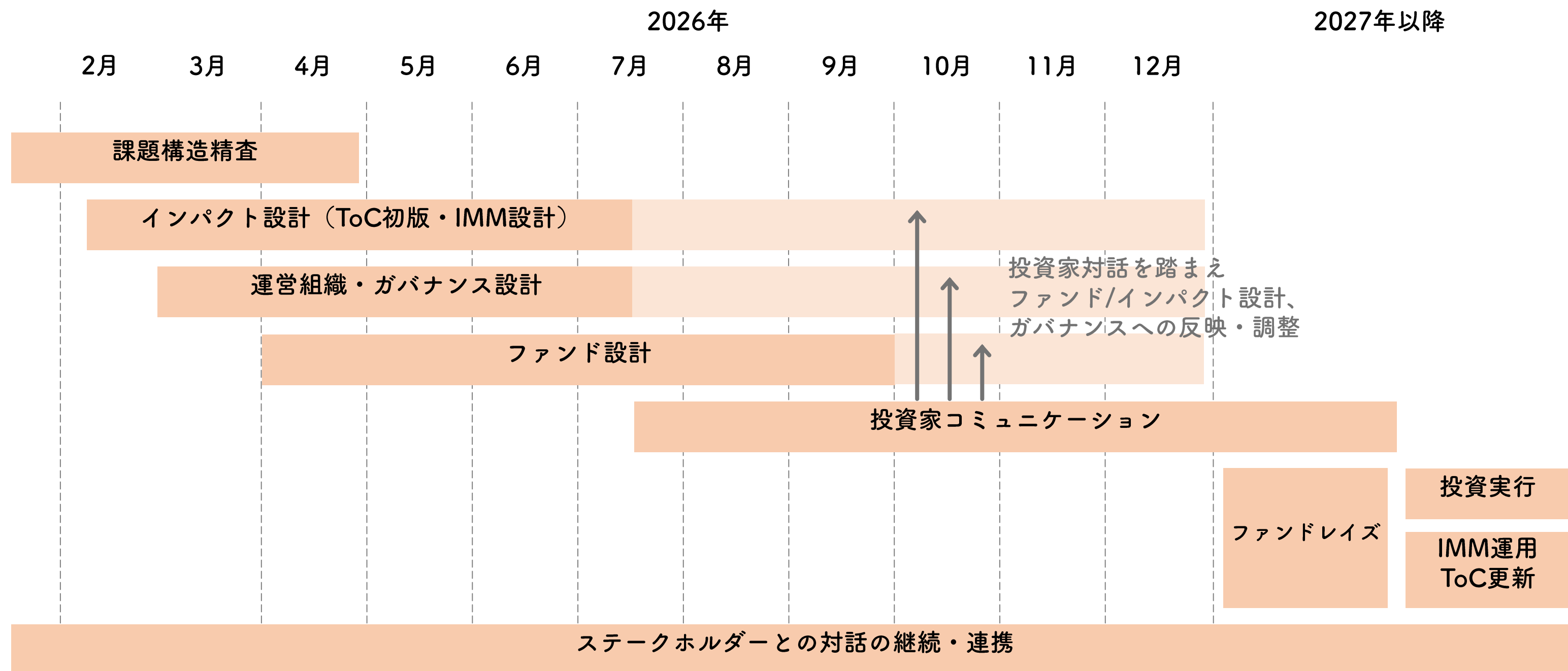
根底におく理念

自然一元論／近江商人の世界観
／相互扶助／命が育まれ続ける状態



このゴールと理念を軸に、ToCと評価の解像度を上げ、実装案件形成へ進めます。

実証で得た「構造理解 × 評価設計 × 合意形成」を、
ファンド運用へ接続する。



運用可能な“金融 × 伴走 × 評価”の仕組みへ、3つの条件を整える。